

口は健康のもと Vol.217

接着は歯科治療を救う！？

日本経済がバブル景気に染まっていた1988年、この年に発売された乗用車の爆発的ヒットから「シーマ現象」という言葉をご存じの方はたくさんいらっしゃるでしょう。それより遡ること5年、1983年に日本の歯科医療業界には「シーマ現象」をも凌ぐ画期的な商品が登場しました。それは、歯にも金属にも接着する「接着性レジンセメント」です。この高い接着性を有する歯科材料の出現により、銀歯の装着に限らず、虫歯治療、矯正治療さらには外傷歯の治療など、接着材料の出現により歯科治療の信頼度の向上と多様化が加速度的に進化しました。細部にまでこだわる日本企業により改良・改善された接着性レジンセメントや接着力増強材の製品化などを経て、令和の時代に突入しました。現在の歯科医療では、「『最小限の侵襲＝なるべく歯を削らない』治療」が主流となっています、これを支えるのが接着歯科治療です。これを実践すべく新しい歯科加工技術と高機能歯科材料を駆使しながら我々歯科医師は日々臨床に精進しております。

お口の健康は人生を楽しく生きる要素のひとつです、歯科治療も大事ですが、ご自身でのお口のお手入れこそが重要です。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 教授 羽鳥 弘毅

